

百人一首大会



本校で「百人一首大会」が始まって、今年で8回目となりました。恒例行事として定着した感があります。年が明けると、百人一首大会に向けて各教室から練習する声が聞かれるようになります。1月の中～下旬にかけて、予選会が3回行われました。高学年になるにつれて、上の句のわずかな数字を読み上げただけで札を取る子どもたちが多くなり、びっくりします。萬歳小学校の継続した取組の成果が感じられました。



百人一首には、奈良時代から鎌倉時代初期に詠まれた100首の和歌が集められています。和歌は、作者の気持ちを31文字の言葉に込めたものです。昔の人々も、現代に生きる



私たちと変わらず、生きていること、老いることに悩み、人を恋し、四季折々の自然に心を動かされていたことがわかります。恋を詠んだ歌が一番多く43首、季節の歌が32首、旅の様子や宮中の様子を詠んだ歌が25首あるそうです。



百人一首を覚えることや対戦することを通して、集中力、忍耐力を養うだけでなく、昔の人々の気持ちを理解したり、日本語の音の響きの美しさも学んだりしてほしいと思います。

そして、本日、決勝戦（6年：吉尾妃夏さん、3年：小河孝文くん）と3位決定戦（6年：中川弥宥さん、3年：村本旦佳くん）が行われます。

